



初代ミス茶娘
小林孝子さん
久沢西 (22歳)

全国有数の高品質茶になりつつある「富士のやぶ北茶」のイメージアップは間違いありません。



「とても光栄に思っています。とさわやかな笑顔がまぶしい小林さん。身長は百六十六センチメートル、体重は五十キログラムと、とてもスマートです。

職業は栄養士。現在、比奈の児童養護施設誠信少年少女の家に勤めていて、職場では、家庭の味を知らない入園児に「手づくりの味を教えたい」と張り切っています。審査の翌日、「お姉さん、やったね」と子供たちも祝ってくれました。

チャームポイントは自称「おでこ」、お茶・お花を習うかたわらジャズダンス・テニス・ローラースケートにも汗を流すという行動派です。

お茶摘みなどの経験はありますが、家ではもっぱら「コーヒーにキーキより、お茶におせんべい」といいます。「若い人にもっとお茶を飲んでもらえるようがんばります」と頼もしい。



スポーツで「コミュニケーション」
味岡亮二さん 中丸

地域スポーツといえば、バレーボール・ソフトボールという枠を乗り越え、田子浦地区に男女混合バレーやインディアカを取り入れたのが味岡さん。



子供たちに感動を与えたい
豊田生子さん 下川成

ニックネームは「せいこちゃん」。並みいるオジサンどもを苦にせず、社会教育推進会の総務として活躍しています。



他人の「子」にも注意を
尾鷲文夫さん 川成島

昭和四十年の発足以来、二十一年間にわたり交通安全指導員を務める尾鷲さん。この間、市内で最初にリスさんクラブ（幼児の交通安全クラブ）を発足させるなど交通安全に人一倍心血を注ぐ。若いお母さん方に「自分の子供だけでなく他人の子供にも注意を与えてほしい」と注文。交通事故撲滅を願うベテラン指導員さんです。

あの人この人こんなこと



渡辺高章さん
小須 (50歳)

我がまちを語る

田子浦地区は、旭化成の進出と田子の浦港の開港により、地区の様相が一変しました。時代の流れもあつたでしょうが、農業中心からサラリーマン世帯層がふえ、都市化現象が進んできました。

口は悪いがお人よし

同時に、田子浦地区独特の風習も薄らいできたのは、ちょっと寂しい気がします。しかし、昔ながらの田子浦人気質といわれる「竹を割ったような性格」「口は悪いがお人よし」の精神はまだ健在です。この地区は、県外出身者が多いのですが、この人たちも地域の人と解け合い、よい意味で田子浦の風土になじんできています。

新幹線富士駅の開駅を控え、富士の新しい玄関口として、田子浦地区の発展は大いに期待できます。今後は、新幹線をどう活用して地区の発展に結びつけるかが、課題です。